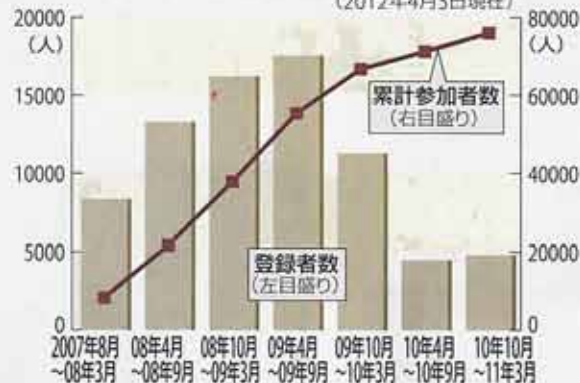


愛荘町の乳がん検診で利用されるマンモグラフィ検査の装置を積んでいる「乳房X線検診車」



「J-START」研究参加者数の推移

(2012年4月3日現在)



## 死亡率低下へ 国が有効性確認研究

女性の体への負担が少ない超音波検査に着目した草津総合病院(草津市矢橋町)では、副作用がほとんどない造影剤を乳腺に注入して調べ、一歩進んだ「造影超音波検査」を10月から開始する。同検査は厚労省も8月に保険適用を決め、乳癌外科部長の中嶋啓雄さん(54)は「腫瘍の内部や周辺構造、血流の状況などがよくわかり、治療に役立つ」と期待している。

女性の体への負担が少ない超音波検査に着目した草津総合病院(草津市矢橋町)では、副作用がほとんどない造影剤を乳腺に注入して調べ、一歩進んだ「造影超音波検査」を10月から開始する。同検査は厚労省も8月に保険適用を決め、乳癌外科部長の中嶋啓雄さん(54)は「腫瘍の内部や周辺構造、血流の状況などがよくわかり、治療に役立つ」と期待している。

く、そのおかげで若い女性の関心も高い。乳房を圧迫しない超音波検査を導入できれば理想的」と町健康推進課長の酒井紀子さん(51)は話す。ただ、乳がん検診に超音波検査を導入することによって死亡率が減少するかはまだ科学的に検証されておらず、有効性を確認しようとする厚労省がプロジェクト「J-START」を2006年にスタートした。乳がん検診を行っている全国の関係機関・団体の協力を得、乳がんにかかったことがない40歳以上の女性を対象に、マンモグラフィ検査と超音波検査の両方をする検診、またはマンモグラフィのみの検診を行い、2年後に再び同様の検診をする。



厚労省のプロジェクト「J-START」について、女性らに説明する検診センターのスタッフ(右)

乳がん検査への超音波検査の導入が注目されている。マンモグラフィ検査で見つけづらい腫瘍が見つかることも言われ、厚生労働省もその有効性を確認するプロジェクトを行っている。より詳しく調べられる造影剤を使っている超音波検査に10月から取り組む草津市の病院もあり、より早期発見につながることを期待されている。

## マンモグラフィ併用 早期発見期待

現在、国の指針で乳がん検診はマンモグラフィ検査が基本。しかし同検査は乳房を圧迫する必要がある。若年層や日本人に多い乳腺組織の量や密度が高い「高濃度乳腺」にできない腫瘍は見つけにくい。一方、超音波検査はゼリーを塗って機器を押し当てただけで検査でき、高濃度乳腺の診断精度が高いと言われている。

40歳以上の女性の乳がん検診受診率は36・2%(2010年度)と県平均21・8%(同年度)を上回っている愛荘町では、20・30歳の女性からも「受診できないか」という問い合わせがしばしばある。ただ、若い女性は乳腺が張りマンモグラフィ検査に苦痛を感じる人が多い。60・70歳代女性の検診への意識が高

# 見つけにくい腫瘍に 超音波検査



造影剤を使って乳腺腫瘍を診断する造影超音波検査のシミュレーション(草津総合病院で)

乳がん検診